



図11 久米遺跡の甕棺と副葬された青銅器

ヒノキ等の針葉樹の年輪形成を用いた方法で、木材・木器に樹皮下の辺材部が残っていた場合は木の伐採年が特定できるというものである。年輪年代測定法と土器の編年による相対年代とに整合性がとれば、非常に有効な手段になると思われる。放射性炭素による測定法は開発以来現在まで数多くおこなわれている。私を含め多くの考古学者らも、その成果には十分関心を持ってきたが、弥生時代の年代推定にその成果を用いるには、まだかなり慎重を期すべきであると常々考えていた。放射性炭素年代測定法は、近年、AMS法(加速器質量分析法)による高精度な測定法によるものとなっている。国立歴史民俗博物館(以下、歴博)の春成秀爾、今村峯雄、藤尾慎一郎らのグループは二〇〇三年、土器に付着した煤などのAMS法による分析から弥生文化の開始期は紀元前一〇〇〇年、前期初頭の年代は紀元前八〇〇年、前期と中期の境は紀元前四〇〇年頃にあると推定し、弥生時代の始まるころの東アジア情勢を殷(商)の滅亡から西周の成立のころに、前期の始まりを西周の滅亡から春秋の初めのころとし、これまでの年代の認識を根本的に改めねばならず、また前期と中期の境についても仮に紀元前四〇〇年頃にあるとすれば、戦国時代のこととなり、朝鮮半島から流入する青銅器についてもこれまでの説明とは違ってくるだろうという問題提起をおこなった。その後これらの年代については細かな調整がおこなわれているようであるが、基本的な点では変わっていないと考える。マスコミが大きく取り上げたこともあって一般にも大きな関心と呼んだ。考古学者の中には積極的に賛意を表するものも一部に

表1 弥生時代の時期区分と推定年代

Table with columns for '推定年代' (Estimated Date), '時代' (Period), '北部九州' (Northern Kyushu), '糸島地域' (Isumi Area), '畿内' (Kansai), '朝鮮半島' (Korean Peninsula), and '中国' (China). It details various archaeological sites and their corresponding time periods across different regions.

※第二章・第三節・理化学的方法による弥生時代年代論(抜粋)

原始編 全78頁

志摩地域は、弥生時代研究の学史的な意味で重要であるばかりでなく、前原市の怡土地区をはじめ他地域と同様に弥生時代遺跡の集中する重要な地域です。中国史書に記載された末盧、伊都、奴の国々とともに中国大陸、朝鮮半島に近いという地理的環境から、古くから大陸との交流がありました。全国的に有名な新町遺跡や御床松原遺跡を中心に、弥生時代の志摩地域を解明していきます。

原始編 執筆者紹介

- 小池 史哲 (福岡県教育庁文化財保護課)
橋口 達也 (福岡女子短期大学教授)
丸山 雅成 (九州大学名誉教授)